

## 第118回 マッセ・セミナー開催報告

### ○「困難な環境に立ち向かうための『考える力』の育て方」

仲山考材株式会社 代表取締役・楽天グループ株式会社 楽天大学学長 仲山 進也 氏

現在の自治体での業務を進める上で法令遵守等、今までに求められていた能力に加え、政策立案や業務改善など様々な場面で求められる能力の一つである『考える力』。「考える」ということを一口に言ってもどういったプロセスで考えられているのか、また『考える力』を育てるとはどういうことなのかという疑問を解決できるようなセミナーを企画し、1月16日（月）に開催いたしました。



オンラインでの講演の様子（講師）

本セミナーでは、仲山考材株式会社 代表取締役であり、楽天グループ株式会社 楽天大学学長で、楽天で唯一のフェロー風正社員（兼業自由・勤怠自由）の仲山 進也 氏をお招きし、「考える」とはどういった仕組みで行われているのかや『考える力』を育てるにはどうすればいいのかなどをテーマにオンラインでご講演いただきました。

講演の前半では、今の世の中は自律型人材（考えて動ける人材）が求められているが、そもそも考えて動くとはどういうことなのか、「考える」ということは頭の中でどういったこと

が行われているのかなどについて、様々な動画やオンラインならではのチャットやリアクションボタンも活用し、双方向でのやり取りをしながらセミナーを進めていただきました。

後半では、『考える力』を育てていくことは困難な状況乗り越えるための準備となることや困難な状況を乗り越えるために明日からでもできるマインドセットやマジックフレーズなどもご講義いただきました。

当日は、92名と多くの方に受講いただき、受講者のアンケートでは「非常にざっくりばらんで分かりやすい説明でした。本当に目から鱗の内容が多く、受講しなかった人にも共有してほしいです！」や「仕事以外の全てにおいて活かせる内容であり、大変良い講義であったと感じています。素晴らしいすぎました！」など嬉しいお言葉も多く、好評につき同内容のセミナー第2弾を希望する声もとても多かったです。

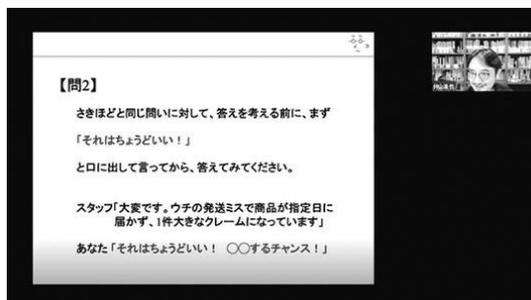
今回のセミナーで得た知識を、どんどん日常で使ってください、考えることや『考える力』を育てていただけたらと思います！！！！

また、この記事を見て本セミナーの内容が気になった方は今年度発刊予定の講演録に掲載する予定ですので、ぜひともチェックをお願いいたします。

今後もマッセ・セミナーやマッセOSAKAのことをよろしく願いいたします！！！！



セミナー内での画像・チャットを使っている様子



オンラインでのスライドを使った講演の様子

## 研究成果報告会を開催しました！

### 働き方を「選択」できる仕組みづくりを考える研究会 (指導助言者) 神戸大学大学院法学研究科 教授 砂原 庸介 氏

当研究会は、自治体職員が働き方を「選択」するにはどのような仕組みづくりを行えばよいか、既存の制度が使われなくなるのはなぜか、また使われるためにはどうすればよいかをテーマに1年間、調査研究を行ってまいりました。その成果報告会を令和5年3月7日(火)にマッセOSAKAにて開催いたしました。

報告会は3部構成で行い、第1部は有理由主宰で前四條畷市副市長の林・小野 有理 氏より基調講演をいただきました。副市長時代に実際に四條畷市にて取り組まれた事例を中心にご講演いただき、研究員のみならず受講者のみなさまも多くの学びを得られる機会となったのではないのでしょうか。



パネルディスカッションの様子

第2部では研究員より成果報告として、研究会にて実施したサーベイ(アンケート調査)の結果や先進自治体への視察から得られた知見、またそれらを踏まえた考察を報告いたしました。

第3部では基調講演にご登壇いただいた林・小野氏と研究員3名をパネリストとし、パネルディスカッションを実施いたしました。モデレーターは指導助言者の砂原 庸介先生にお務めいただきました。砂原先生や林・小野氏より成果報告へのご感想をいただいたり、成果報告の中で明らかとなった点について、研究員を交えさらなる意見交換を行ったり、第1部と第2部だけでは聞くことのできなかつた部分をお伝えすることができました。

成果報告会が終了し、最終成果物である成果報告書の発刊に向けて、研究員一同取り組んでいる最中でございます。発刊した成果報告書はマッセOSAKAのホームページに掲載、及びマッセOSAKAでも配架いたします。ぜひご一読ください！

市 町 村 名	所属(研究員10名)	氏 名
豊 中 市	教育委員会事務局学校運営改革プロジェクト・チーム	入 江 基 宏
守 口 市	総務部人事課	池 田 裕 一 郎
富 田 林 市	消防本部警防第2課金剛分署	岩 橋 正 文
東 大 阪 市	上下水道局水道総務部水道経営室企画課	平 田 純 一
八 尾 市	人権ふれあい部山本出張所	黒 田 哲 夫
八 尾 市	都市整備部土木管理事務所	福 森 宣 道
和 泉 市	総務部総務管財室財産担当	着 本 充 代
和 泉 市	消防本部消防署警防第一課	田 中 数 也
田 尻 町	総務部秘書課	高 田 唯 衣
	神戸大学大学院法学研究科	佐々木 勇 弥
枚 方 市	マッセOSAKA派遣	北 口 あゆみ
阪 南 市	(同上)	射 場 祐 輔



林・小野氏ご講演の様子



成果報告会終了後 集合写真  
後列(研究員・事務局)  
前列左より研究員、林所長、砂原先生(指導助言者)、  
林・小野氏、研究員

## 公募論文の受賞者が決定しました！！

令和4年度は、エッセイ部門に5編の応募があり、審査の結果、次のとおり受賞者が決定しました。なお、今回は論文部門の応募はございませんでした。

### ◆エッセイ部門

受賞作	標 題	受賞者(敬称略)
優秀エッセイ賞	3ヶ月間の父親の育児休業経験談と育児休業取得の必要性について	堤 勇 貴 [高槻市健康福祉部福祉事務所生活福祉支援課]
	多様性に対応する自治体になるために	スギヤマ 知穂 [吹田市市民部市民課パスポートセンター]
	フードドライブで貧困家庭を救え ～SDGsに公務員が取り組めること～	後野 真 [吹田市都市計画部計画調整室]

※令和5年度も論文・エッセイの募集を予定しています。  
自治体、行政に関することであれば分野は問いませんので、仕事の中で感じた思い、考えを論文やエッセイにしてみてください。皆さまからのご応募お待ちしております。

## 研究成果報告会を開催しました！

### 自治体財産（ハコモノ）の新たな活用方法を考える研究会

～利用できるから利用したくなる公共施設へ～

(指導助言者) 東洋大学経済学研究科公民連携専攻 客員教授 藤木 秀明 氏

当研究会は、自治体財産の中でも公共施設（ハコモノ）を今後継続して維持管理する上で、ただ維持することなどを目的とせず、住民などが利用したくなる公共施設にするためにはどういったことが必要かということテーマに1年間、調査研究を行ってまいりました。その成果を報告するため、令和5年2月28日（火）にマッセOSAKAにて成果報告会を開催いたしました。

報告会は3部構成で行い、第1部は東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授の瀬田 史彦先生と東洋大学経済学研究科公民連携専攻客員教授の南 学先生より公共施設マネジメントや今後自治体が直面する問題などについて基調講演をいただきました。長く公共施設マネジメントに携わられて



南先生ご講演の様子

いる先生方でまちづくりなどの観点や自治体職員での経験や関わられてきた事例などを踏まえたご講演をいただいたことで受講生のみなさまの中でも気づきの多い機会となったと思います。

第2部では研究員より研究会での先進視察先よりいくつかの施設の紹介や、視察から得られた情報から利用したくなる要素の考察、各施設の共通項から考える利用したくなる公共施設にするためのポイントなどを報告いたしました。

第3部では基調講演にご登壇いただいた瀬田先生、南先生と研究員3名をパネリストとし、指導助言者の藤木 秀明先生にモデレーターをお務めいただき、パネルディスカッションを実施いたしました。講演の中で聞けなかったことや講演を踏まえた感想などの報告、先生方より成果報告へのご助言や今後の課題など多くのお話をより深くお伺いする機会となりました。

1年間を通じて得られるものも多く、研究成果報告会でのお話を含め、報告書を研究員一同作成いたします。ホームページに掲載、及びマッセOSAKAでも配架いたしますので、ぜひご一読ください！



瀬田先生ご講演の様子

市 町 村 名	所属 (研究員10名)	氏 名
茨 木 市	教育総務部社会教育振興課	盛 口 亮 治
吹 田 市	吹田市教育委員会地域教育部江坂図書館	丹 羽 歌 織
高 槻 市	教育委員会事務局今城塚公民館	清 水 章
豊 中 市	教育委員会事務局読書振興課	石 田 ひ ろ
門 真 市	まちづくり部庁舎工エリア整備課	阿 部 武 志
門 真 市	まちづくり部都市政策課まち再生グループ	勝 連 賢 介
門 真 市	総務部管財統計課	樋 口 翼
東 大 阪 市	企画財政部資産経営室資産経営課	豊 永 浩 基
東 大 阪 市	福祉部高齢介護室高齢介護課長瀬老人センター	村 澤 宏 亮
泉 大 津 市	総務部資産活用課	稲 田 博 紀
摂 津 市	マッセOSAKA派遣	山 根 諒 平
藤 井 寺 市	(同上)	河 野 由 樹



成果報告会終了後 集合写真

後列 (研究員・事務局)

前列左より研究員・瀬田先生 (東京大学)・南先生 (東洋大学)  
・藤木先生 (指導助言者)・林所長・研究員

(きたぐち) 枚方市から派遣の北口です。マッセに派遣されてからあつという間に2年経ち、最後のつばやきとなりました！時がたつのは早いものです。さみしい気持ちといたいところですが、研究会の成果報告書の作成でんやわんやしており、さみしい気持ちになるのはもう少し先になりそうです…。最初に書いたつばやきを何を書いていたかなと思って見返してみたら、人間ドックの話をしていました(笑) 今年も人間ドックを受けましたが、無事に健康が保たれていました。体脂肪率も保たれていましたが…。まあ、外出自粛が解けても運動せずにいるので仕方がないです。むしろ、外食が増えても増加していないだけ良しとします。残りの日々も健康に気を付けて頑張ります！あと少しですが、よろしく願いいたします！！

(やまね) マッセに派遣してもらって早二年が経とうとしている摂津市からきてます山根です。つばやきも久しぶりの執筆なのですが、これが最後という形になるはず？ですので、寂しい気持ちになりながら書いています。話は変わりまして、春が近づいていることを実感する今日この頃ですが、春眠暁を覚えずではないですが、花見など楽しいことも多く心待ちにしている方と「花粉症」という難敵と戦わないといけない方いらっしゃると思います。我が家は妻が花粉症と戦っておりまして、日々格闘されています。何かいい武装方法(笑) や対策ありましたら教えてください！あと少しですが、頑張ります。次号で帰任先が決まっているはずなので、またお暇があれば見てみてください。

今号は  
きたぐち&  
やまねです。

★★★★  
スタッフの  
つばやき  
Vol.34



## 令和4年度事例研究（3/8実施）開催報告

### ○ 人口減少時代の交通の新たな可能性（MaaS） オンライン開催

昨年度のフューチャー・デザインやDXに続き、今年度はMaaS（Mobility as a Service）について、事例研究を実施いたしました。今回は「人口減少時代の交通の新たな可能性（MaaS）」と題し、Zoomを活用したオンライン開催にて3月8日（水）の14:00から16:30まで全3部構成にて実施いたしました。

第1部では基調講演を東京大学大学院 新領域創成科学研究科 特任教授の中村 文彦先生にご登壇いただき、『公共交通の問題を解決するMaaSとは』をテーマに1時間のご講演をいただきました。公共交通が直面する問題（自動車を中心に考えすぎているまちづくりや政策など）の解決の手法としてMaaSをご紹介いただきました。MaaSと聞くとデジタル化、アプリなど想像してしまいがちですが、それも一部であり、定義の仕方はそれぞれであることや本来の自治体が行うべきであるまちづくりの一つの手法としてMaaSがあることなどより広い視野で物事を考えるための第一歩となる講演でした。



第1部 基調講演の様子（中村先生）

第2部では先進事例の報告で愛知県豊明市の野村さま、長野県伊那市の谷田さまのお二人より各20分の事例紹介をいただきました。愛知県豊明市では公民連携を駆使し、地元企業との共創を行いながら「チョイソコとよあけ」という取り組みを実施されています。取り組みの内容やそこに至るまでのプロセスについてご紹介いただき、みなさまの自治体での導入のきっかけになるような報告をいただきました。また、長野県伊那市では「モバイルクリニック」という医療を届けるための手法としてMaaSを活用した取り組みを実施されており、豊明市とはまた違った取り組みをご紹介いただきました。MaaSといわれるとオンデマンドバスなど主に移動手段としての手法を想像されますが、伊那市では人口減少や高齢化の問題を解決するための手法として様々な取り組みにMaaSを活用されており、その中でも医療を受けに来るのではなく、受けられる環境を住民に届けるという手法に発想の転換の重要性を感じました。



第2部事例報告の様子（上：豊明市、下：伊那市）

先進自治体のご報告を聞く中で、自治体職員としてまだまだ考えられることはあるのだなと再認識するいい機会となりました。

第3部では第1部にご登壇いただいた中村先生と第2部に登壇いただいた野村さま（豊明市）、谷田さま（伊那市）にご登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。進行は中村先生にお務めいただき、事務局としては運営そっこのけで受講者の一人として視聴しておりました。（お恥ずかしい話ですが・・・）さまざま事例の紹介を頂いた中で、制度の仕組みのより深い部分や今後の展望などをお話いただき、理解が深まる30分でした。詳しい内容は講演録（来年度発行）に掲載する予定ですので、そちらをご覧ください。

今回の事例研究を通じて、まだまだ自治体として住民のみなさまに喜ばれる自治体運営を行う余地はあるのかなと感じました。マッセ OSAKAは今後も様々な事業を展開しますので、何か興味がある方はぜひご活用ください！

## 「地方自治ゼミナール」が終了しました

今年度も、大阪大学大学院法学研究科、大阪学院大学大学院経済学研究科、大阪公立大学大学院都市経営研究科、和歌山大学大学院経済学研究科と連携し、地方自治ゼミナールを実施いたしました。今年度に各ゼミナールへ参加された受講生の皆様からの感想をご紹介します！令和5年度も、ぜひみなさまご参加ください！

### 大阪学院大学大学院 経済学研究科

連携事業における公開講座に参加しました。

- 講義テーマについて、身近な話題から専門的課題について講義を進めていくため、課題理解がしやすく、過去の事例や他市・他国と比較分析等を行うことで、課題について深く考察することができました。また、他市の自治体職員・学生の方々と意見交換できた点も、外部研修の特徴である貴重な経験でありました。今後も外部の学びの場に積極的に参加していきたいです。

### 大阪大学大学院 法学研究科

受講者から提出された研究テーマに基づき、担当講師ごとにユニットを構成し、現在の自治体が抱える喫緊の課題について調査研究を行いました。

- 今回の「地方自治研究」を通じ、行政処分や行政契約といった行政法学に係る解説書や学術論文を読み込んだり、政府のICT施策に係る過去の計画文書等を読み込んだりする中で、改めて行政法に対する理解を深めたり、行政デジタル化について検討したりすることができ、大変有意義な研修でした。
- 日ごろより関心があったテーマについて、専門家のアドバイスを基に研究することができたことは良い点であった。データを集め方、分析など、今回研究を行ったテーマ以外の業務においても応用することができると思う。このため、普段の業務や異動後の他部署でも今回身につけたノウハウを活かし、職務に取り組みたいと考える。

### 和歌山大学大学院 経済学研究科

公共政策に関する特定のテーマについて、研究・検討を行います。

今年度は受講申込がございませんでした。来年度の参加をお待ちしております。

### 大阪公立大学大学院 都市経営研究科

行政改革や行政経営をはじめ、まちづくり、地域活性化など都市政策・地域経済に関する第一人者である実務家や研究者をゲストスピーカーとしてお招きし、「現状と課題」を中心に講義を行いました。

【テーマ】

エリアマネジメント、自治体文化政策等

- 社会人大学院生に混じりながら、行政に関することを様々な角度から学び討論する時間は、金曜夜の就業後であるにも関わらず、とても刺激的で楽しく、次回の講義が待ち遠しいほどでした。エリアマネジメント、自治体文化施策等の第一人者の方から、現場の生の声を聴きながら、現状の把握、課題や解決策などを議論する時間は、普段の生活の中では得難く、とても視野の広まる貴重な機会となりました。
- 私は都市政策・地域経済ワークショップの受講を通して、地方自治体のみが文化政策を推進することだけではなく、地域でのエリアマネジメント会社、アーティストの芸術活動等によって、行政と社会とをつなぐ役割を果たすアートマネジメントを実行していくことができると感じました。
- 課の在籍年数も長くなり新しい知識を得る機会が欲しいと思い応募しました。終業後に実際の仕事には直結しない講座を3時間受講することは勇気が必要でしたが、様々な分野で活躍されている方の講演を聞くことは独学ではとても困難で、たくさん刺激をもらいました。勇気を出して応募してよかったです。
- このワークショップは各分野の第一人者の貴重なお話を聞くことができるだけでなく、普段は社会人として働きながら夜間や土日に通学している大学院生とともに受講するので、学生の熱意や分析力などができます。熱意のある学生とともに学びたい方は受講してみたいかがでしょうか。

## 令和4年度 マッセ・市民セミナー 開催報告

### 【ちやいどネット大阪との共催事業】

実施日時	テーマ	講師
7月6日(水) 14:00～16:30	発達障がいの子どもの行き詰ませない保育実践 ～すべての子どもに通じる理解と対応～	野藤 弘幸氏
9月13日(火) 14:00～16:30	子どもの主体性・非認知的能力を育てる保育	佐々木 晃氏 (鳴門教育大学)
10月20日(木) 14:00～16:30	子どもは“育ちなおし”の名人	広木 克行氏 (神戸大学名誉教授)
11月18日(金) 14:00～16:30	子どもの最善の利益を考えた保育	山縣 文治氏 (関西大学)

マッセOSAKAでは特定非営利活動法人 ちやいどネット大阪と共催で上記のセミナーを開催いたしました。いずれのセミナーでも最初の30分は大阪府福祉部子ども室から情報提供をいただき、その後2時間のセミナーを各講師にご講義いただきました。マッセOSAKAからお申込みいただいた府内市町村に所属される保育士や職員の方や、ちやいどネット大阪からお申込みいただいた保育士の方が主な参加者で、4日程で200名以上の方にご参加いただきました。

参加いただいた皆さまからは「どの事例も自分のことかというくらいよくあることだったので、考え方や関わり方を教えていただいてよかった」や「今までしてきた保育のいいところややってきたことをすごく肯定していただき、そこから今の保育に生かしていくのか、そしてどう若手の職員に伝えていくのか改めて考える機会を貰えました」、「子どもの育ちのプロセス、人間へと成長していくプロセスや現場で感じていた子ども達の変化や泣きぐずりの背景が分かりやすく、保育に生かせる内容がいっぱいでした」、「保育者だけが頑張っても、保護者だけが頑張ってもダメで、両者が共に努力することが大切だと分かった」などのお声をいただきました。

次年度も4日程にて開催させていただく予定でございます。ぜひ、お申込みの程よろしく願いいたします。

### 【一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団との共催事業】

「SDGs時代の表現～一人ひとりを尊重するために～」



講師：NPO法人あなたらしくをサポート(らしーく) 副代表理事 波多江 みゆき 氏

令和4年11月22日(火)、大阪府男女共同参画推進財団との共催事業として、SDGsの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」の意識醸成と、自分の価値観や認識をふり返し、一人ひとりを尊重した表現を学ぶことをテーマに、マッセ・市民セミナーをオンライン開催いたしました。

今や誰もがSNSや広報等で発信者になる時代。表現の仕方に悩むことはありませんか？悪気なく無意識に発したことが、偏見や差別と受け取られることもあるかもしれません。

講義では、社会の変化に対応し人権に配慮することの大切さ、年齢や性別に対する無意識の思い込みや偏見等表現するときに気をつけるポイントについてわかりやすくお話しいただきました。また、イラストを使った表現の注意点や言葉づかいの見直し(例:母校→出身校)、自治体が男女共同参画の視点から作成する表現ガイドライン等もご紹介いただき、気づき



やふり返りを深めることができました。

参加者からは、「風通しのよい組織、悪い組織など、ぼんやりとしていたなぜだめかが、腑に落ちました」「人権・コミュニケーションの土台として、まずは自分を丸ごと肯定し、次に相手を丸ごと肯定する。人は思っている以上に周囲に左右される。など、なるほどと感じた」などご感想をいただきました。

## 【大阪府社会福祉協議会との共催事業】

### 「誰も取り残さない社会へ～当事者目線のユニバーサルデザインから考える～」

令和5年2月22日、大阪府社会福祉協議会との共催事業として、「誰も取り残さない社会」をテーマにマッセ・市民セミナーを開催いたしました。内容としてはユニバーサルデザインの紹介や学識者の先生や当事者の方の各お立場での経験などのお話や、参加者によるワークショップを実施しました。

セミナーは2部構成となっており、第1部では近畿大学名誉教授 三星 昭宏先生を講師にお迎えし、実施いたしました。最初に「誰かが取り残されること」には様々な要因があり、その要因をいろいろな視点を持ち、対策を行うことが重要であることを説明いただき、早速問題事例の洗い出しを受講者全員で行いました。意見交換を重ね、各班での合意形成の上、発表するという形でした。いろいろな部署、お仕事の経験があるみなさまでの意見交換だったので、様々な角度、視点からの意見があり、興味深いものでした。その後、先生よりまちづくりの中で関係する法整備の歴史や数々の取り組みなどをご紹介いただきました。

第2部では事例報告といたしまして、認定NPO法人DP I 日本会議副議長 尾上 浩二氏より「当事者意見から生まれたユニバーサルデザイン」をテーマにご報告いただきました。尾上氏自身が車椅子をお使いになられているので日常生活等で活用されているユニバーサルデザインの紹介やその対策に至った経緯などをご紹介いただきました。お関わりになられている事案も多く学びの多い報告でした。

本セミナーを通じて、当事者意見の重要性や傾聴し、考えること、継続した試行など、様々な面で考えることはまだまだあるなど実感いたしました。今後も共催事業は続きますので、興味のある方はぜひチェックしてみてください。

## 【北摂都市研修協議会との共催事業】

### 「マネジメント研修」

令和4年12月20日に北摂都市研修協議会との共催事業として「マネジメント」をテーマに、株式会社ヴェイン 代表取締役の藤田 克也氏をお招きし、マッセ・市民セミナーを開催いたしました。組織マネジメントの基本や求められる役割、必要なスキルを学ぶことを目的に3時間のセミナーを実施いたしました。

研修は、組織の長に求められる役割として「組織目標の設定・理解・意味共有」「組織目標の達成に向けた方策と役割分担」「部下の指導・育成」「働きがいを感じる職場環境を整える」の4つがあり、その役割を遂行するために「意思決定」「コミュニケーション」「タスクマネジメント」などのスキルが必要で、その方法論、考え方を学ぶ内容でした。また、項目ごとに個人ワーク、グループワークを行い、受講生同士が理解を深められる講義でした。

研修の中で「意思決定のポイントは3つの視点と3つの判断軸で説明することである。成功率ではなく、決定した内容について理由を説明できるかどうかであり、それがとても重要」とご説明があり、意識して行動することが大切であると感じました。

今後も共催事業は続きますので、ご興味がある方はご活用ください。



目まぐるしく変化する時代の中で、地方行政、自治体職員が目指すべき方向性について、学識者・行政経験者などの著名人に、政策提言を頂きます。

【第33回】

「朝礼だけの学校」校長  
教育改革実践家/リクルート社初代フェロー/  
和田中学校・一条高校元校長  
**藤原 和博氏**



AI×コロナ時代の戦略的生き方のすすめ  
～未来を切り拓く職員になるための思考法～

はじめに

私と大阪との縁は深い。最初はリクルート時代。27歳の頃、「ハウジング」という家を建てる人のための情報誌の創刊で半年間、真田山に住んだ。その後、53歳になって、橋下徹・元大阪府知事の要請で教育改革に参戦。40日間大阪に張り付き、25市町村、55校を巡って歩いた。西成高校で同校バスケット部と府市教委職員の元バスケット部選抜の試合をしたり、「ホームレスは社会のゴミか?」という思い切ったテーマで「よのなか科」のディベート授業を仕掛けたりしたのも良い思い出だ。

本稿では、敬愛する大阪の職員の皆さんに、大阪市民の未来を拓く仕事をしながら、同時に、自分自身の人生を豊かに生きるヒントを紹介しようと思う。

1. できない理由を探すのを止め、やってみよう

未来を拓くには、常識を超えて突破する力が必要だ。

日本では1997年に高度成長が終わり、1998年から成熟社会に入った。成熟社会ではすべてのモノ、コト、ヒトが多様化し、社会が複雑化し、変化が激しくなる。

学校現場でも、児童生徒が多様化し（例えば軽度発達障害児も一括りにはできない）、家庭の事情が複雑化し（離婚も虐待も増えている）、いじめや不登校も変化が激しい。

このような社会では、特定の施策によって得られるメリットとリスクを予測することは難しい。単純に言えば、やってみなければわからないのである。

例えば、私が東京都で義務教育初の民間校長をやった和田中学校では、通常50分を単位とした授業を45分にして週あたりのコマ数を28コマから32コマにアップし、英数国の基本教科の授業を1コマずつ増量したこと

が、学力向上に貢献した。

現在の中学校の指導要領で英語と数学が週あたり1コマ増えて4コマずつなのは、和田中での実践がモデルになったものである。教員と力を合わせてやってみてから、運用上問題があったら、戻せばいいと考えた。

また、土曜日午前中に「土曜寺子屋（ドテラ）」を開講して教員志望の大学生を集め、その週に出た宿題と一緒に片付けたり、数学が苦手な中学生に算数から学び直しをさせる活動は今でも続いている。進学塾を入れて話題になった「夜スペ」や英語のアドベンチャーコースは、その後見直されて終了している。

新しい提案について、まず「できない理由」を探す公務員や教員が多いように見受けられるが、納得がいく施策については、まず始めて、その後に市民のウケを見ながら無限に修正していくのが、成熟社会にマッチしたスタイルなのである。

2. 情報処理力から情報編集力へ、ジグソーパズル型思考法からレゴ型思考法へ

成長社会から成熟社会への変化は、どんどん「正解」であることがなくなっていく変化でもある。成長社会では「正解」の出し方を知ってる方が有利だったし、私企業でも地方公務員になっても偉くなれた。つまり、正解至上主義教育で育まれた「情報処理力」（正解を早く正確に当てられる力）が日本人の幸福に直接結びついていたわけだ。ところが、正解がないか減っていく成熟社会では、図1の右に示すような「情報編集力」の方が大事になる。

正解がない問題を解決するために自分の仮説を出し、他者の意見も聴きながら「自分が納得し、かつ関わる他者をも納得させられる解」（納得できる仮説だから「納得解」）を導く力だ。知識、経験、技術の全てを組み合わせなければいけないから「編集」という言葉を当てている。

まず「納得解」を実行してみて、（正解を一発で当てる）「正解主義」ではなく、試行錯誤しながら「修正主義」で事に当たらなければいけない。ようは、頭を柔らかくして常識を超え、突破する力である。

左の「情報処理力」はジグソーパズルに例えられる。ジグソーパズルは、ミッキーとミニーマンの絵だったり、お城の綺麗な写真だったり、始めに「正解」があって、それを200ピースとか2000ピースとかにバラしてから元の絵に戻す。つまり正解主義のゲームだ。

それに対して、レゴはパーツの種類は少ないものの、自分のイマジネーションを動かせることで、その組み合わせによって宇宙船でも家でも、文字通り街全体を作り

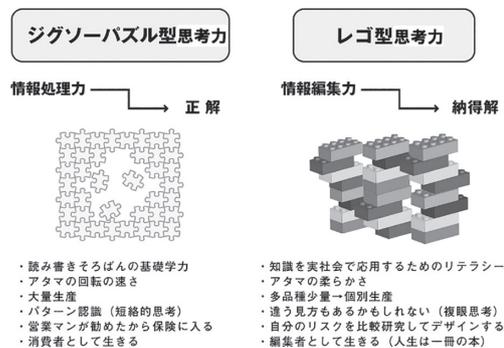


図1 ジグソーパズル型思考力とレゴ型思考力

上げることが可能だ。

これからの職員は問題解決のために、情報処理的なジグソーパズル型思考法ではなく、情報編集的なレゴ型思考法にシフトしていかなければならないわけである。

### 3. 3つのキャリア（スキル）を掛け算して大三角形を作り、希少性を高めよう

仕事で頭を柔らかくして常識を超え、突破する力を育てれば、みなさん自身の中盤・後半の人生にも、常識を超えて突破する力が沸き上がってくるだろう。

そこで、AI×コロナ時代に人生を切り拓くには「希少性」を高めることである。

超のつく情報ネットワーク社会では「希少性」がないとアクセスされない。つまり、味が付かない。それでは、孤軍奮闘しているだけで社会の方からエネルギーが入ってこないことになってしまう。

職員のみなさんにとって自分の「希少性」をアップする良い方法は、3つのキャリア（スキル）の掛け算でキャリアの大三角形を作ることだ。

詳しくは『必ず食べる1%の人になる方法』や『45歳の教科書』など藤原和博「人生の教科書」コレクションや『60歳からの教科書』の記述に譲るが、ポイントは図2のように、それぞれのキャリア（スキル）で100人に1人のレアさを確保し、それを20代、30代、40代と重ねて掛け算していくこと。退職までに100分の1を3回掛けることで、100万人に1人の希少性（ユニークさ）を確保する道筋がおすすめだ。

人は誰でも1万時間（5年から10年）1つのことを練習することで仕事をマスターするので、その時点で（経理とか営業とかの世界で）100人に1人の希少性は確保されている。これを別の仕事であと2回繰り返して、その組織では自分しかできない分野に自分の旗を立てるのだ。私の場合には、20代の1万時間で営業とプレゼンをマスターし、30代ではリクルート流のマネジメントを1万時間学んだ。3つ目の掛け算が47歳での民間校長へのチャレンジだったので、希少性が一気に増した。

あなたも、30代から50代の間でチャレンジする3つ目のキャリア（スキル）が同僚から意外に思われるようなものだと希少性が増し、仕事の主導権を握れるようになるはずだ。だから、三歩目のジャンプでは、常識を超え、突破してみよう。

### どんな人でも、「正しく」努力すれば100万人に1人の存在になれます。



図2 「希少性」をアップする良い方法

おわりに

最後に、私の仕掛けで学校の希少性が上がった例を示して本稿を閉じよう。

奈良市立一条高校の民間校長として2016年に赴任したのだが、まず生徒所有のスマホを校内WiFiに繋ぎ、授業に100%利用するシステムを作って「スーパースマートスクール」化した。次に講堂の改築に際して30年来の友人であった隈研吾に設計を依頼。OBを中心に4000万円以上の寄付を集めて一条ホールを完成。最後に、現校長の努力で中学部を設置し中高一貫校に。ここでも3つの掛け算が効いている。

「希少性」を磨き上げることは、今後の日本社会全体の政策的課題でもある。

#### ◇ 執筆者Profile ◇

藤原 和博（ふじはら かずひろ）  
「朝礼だけの学校」校長 <https://chorei.jp/>  
教育改革実践家／リクルート社初代フェロー／  
和田中学校・一条高校元校長

講演1800回を超える人気講師。書籍は累計92冊158万部。YouTube講演動画公開中

1955年東京生まれ。78年東京大学経済学部卒業後、株式会社リクルート入社。東京営業統括部長、新規事業担当部長などを歴任後、93年よりヨーロッパ駐在、96年同社フェローとなる。2003年より5年間、都内では義務教育初の民間校長として杉並区立和田中学校校長を務める。08～11年橋下大阪府知事特別顧問。16年から2年間奈良市立一条高校校長として生徒個人のスマホをWiFiに繋いでフルに授業に活用。

アクティブラーニングの手本となった「よのなか科」が『ベネッセ賞』、「地域本部（現在は地域学校協働本部として全国の公立学校の7割に波及）」が『博報賞』、食育と読書活動が『文部科学大臣賞』をダブル受賞し一挙四冠に。

著書に『人生の教科書【よのなかのルール】』『人生の教科書【人間関係】』（ちくま文庫）があり「人生の教科書作家」とも呼ばれる。ビジネス系では『リクルートという奇跡』、和田中改革ドキュメント『つなげる力』（共に文春文庫）。教育系では『父親になるということ』（日経出版）、『僕たちは14歳までに何を学んだか』（SB新書）、共著に45万部のベストセラー『16歳の教科書』（講談社）がある。

人生後半戦の生き方の教科書『坂の上の坂 55歳までにやってみたい55のこと』（ポプラ社）は12万部を超えるベストセラー。キングコングの西野亮廣氏絶賛の『藤原和博の必ず食べる1%の人になる方法』（東洋経済）、ホリエモン絶賛の『10年後、君に仕事はあるのか?』（ダイヤモンド）、ちくま文庫で藤原和博「人生の教科書」コレクションがスタート。2020年、デビュー作『処生術』も復刻。

日本の職人芸の結晶であるブランドを超えた腕時計「Japan」[arita]（文字盤が漆塗りや石巻の雄勝石、有田焼の白磁）を諏訪の時計師とファクトリーアウトレット方式でオリジナル開発。個人マニファクチャラー（生産者）の可能性を追求。

本業は教育改革。教育界に蔓延る「正解主義・前例主義・事勿れ主義」を排し一斉授業を超える仕組みづくりに奔走。一条高校では生徒所有のスマホを授業に活かし「スーパースマートスクール(SSS)」化。2021年都立富士中高一貫校で中学からのSSS改革を支援。2022年山梨県知事特別顧問として父の故郷・山梨の教育改革に参戦。隈研吾とともに「富士登山鉄道プロジェクト」の応援団長にも就任した。

さらに「朝礼だけの学校（あさがく）」を開校し、史上初、生徒が全員先生の学校をプロデュース。詳しくはホームページ「よのなかnet」<http://yononaka.net>に。

第25回

ココだけの… **こぼれ話**



本コーナーは、日常生活をイキイキと活動している現職の行政関係者を取り上げ、どのように仕事に活かしているかをお披露目していただくコーナーです。執筆者は、マッセOSAKAの職員が研修や交流会などで出会った方や、マッセOSAKAに派遣されていた先輩方をお願いしております。

**ことことHANNAN♪ 毎月出会うすてきな人たち**

阪南市 未来創生部 シティプロモーション推進課 芝崎 麻季 さん

広告代理店での営業、英会話講師、ベンチャー企業の新規開拓営業を経て自治体職員へと転職しました。現在、シティプロモーション担当として、日々奮闘しております。元々旅行が好きで、広告代理店時代は毎週ビジネスホテルや旅館に宿泊し、効果的な広告発信を提案してきました。旅行客を増やすためには、1件の事業者ではどうにもならない！県全体の旅行客を増やしましょうと、県庁にも伺いました。その頃から地域へ貢献したいという気持ちが芽生えていたように思います。



阪南TV (毎月第3火曜日お昼 12時～生放送！)



ことことHANNAN♪

現在「阪南TV」というインターネットテレビのMCを担当しています。YouTubeで視聴可能です。コーナーの一つに「ことことHANNAN♪※」があり、市内で活躍されている方やInstagramで知り合った市内在住者にインタビューに出かけます。普段の風景を散歩しながら水彩画で描く方、テントサウナを各地に出店している大学生、「宇宙トマト」と称したトマトとイチゴの栽培を行っている農家さん、地域カフェやお弁当の無料配布を行っている地区福祉委員の方々。皆さんとってもイキイキ、豊かな生活を送られています。私は思わず福祉委員さんに「私も地域のために、奉仕活動ができる日が来るのでしょうか」と質問すると「あなたにもそんな日がきっと訪れるよ」と返ってきました。毎月訪れる、すてきな出会い、私のイキイキ仕事ができるエッセンスになっています。

※市内には、「このまちが好き」、「このまちを良くしたい」という思いをもって、自分たちの暮らすまちを大切にしている皆さんがたくさんいらっしゃいます。皆さんのもとにシティプロモーション担当職員が直接お伺いし、小さな戸(小→こ、戸→と)を一つずつ開けて、直接お話を伺いたい、活動を紹介したいというコンセプトで、令和3年6月から「ことことHANNAN♪」が始まりました。

# 研修 日本縦断!

全国の特徴ある職員研修を随時紹介します。



第28回

神奈川県市町村振興協会  
研修施設(研修センター)



## 神奈川県市町村振興協会研修施設(研修センター)について

神奈川県内の市町村職員のための研修機関は、昭和47年3月に財団法人神奈川県市町村研修センター(旧財団)として横浜市中区山下町に設立され、平成9年12月に横浜市栄区の本郷台駅前県市等合同施設の完成に伴い、同施設内に移転しました。

平成16年1月に旧財団の解散に伴い、財団法人神奈川県市町村振興協会へ引き継がれ、平成24年4月には公益財団法人神奈川県市町村振興協会(現財団)の従たる事務所の施設となって現在に至っています。

研修事業は、各階層別の基本研修、講師養成のための講師養成研修及び専門知識や技能を修得する専門実務研修のほか、市町村職員中央研修所等が実施する研修講座受講に係る経費の助成などを行っています。

当協会の研修部門である研修課の職員は、協会職員が3人(内自治体OBが2人)、市町村からの派遣職員が2人の計5人です。



《本郷台駅前県市等合同施設(振興協会研修施設)》

## コロナ禍の下での研修

令和2年に始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、社会経済の様々な場面に多大なる影響を及ぼし、当協会の研修講座も令和2年度は全面的に休止しました。休止期間中にオンライン研修の導入も含めて研修の実施方法について検討した結果、研修効果の観点からやはり集合研修が最適と判断し、令和3年度は研修施設1箇所に参集するのではなく、県内4地域に分けて会場を確保して実施する「地域分散・小規模参集型」と称して実施しました。令和4年度は、感染が再拡大したため中止の止むなきに至り、年度後半から感染防止対策を講じながら研修施設に参集する形で研修を実施しています。



《研修風景》

## むすび

新型コロナウイルス感染症へ対応した3年間に自治体では、様々な工夫をしてオンラインやハイブリット型を活用した事業が実施されました。その一方で、改めて“参集・集合”の価値も再認識されたところです。

令和5年度は、コロナ禍の下で得た受講者の声やオンライン研修の課題なども踏まえて講座のあり方を引き続き研究するとともに、「自治体DX」や「EBPM実践」などの新しい研修講座も開設する予定であり、今後とも市町村職員の人材育成を支援してまいります。

# シリーズ バトンタッチ

第190回

研修担当課の皆さんが、次々に仲間を紹介し、ネットワークを広げます  
今回は、大阪狭山市の田村さんからのご紹介で…



四條畷市 総務部 人事課 余田 しずかさん

◆四條畷市役所の屋上からみる風景と共に

大阪狭山市の田村さんから、バトンを受け取りました、四條畷市人事課の余田と申します。私は令和3年4月に人事課へ異動し、研修を担当し2年目が終わろうとしています。コロナ禍でしか研修を担当していないので、コロナが落ち着いて他の自治体の皆様との交流が増えたり、コロナ禍ではできなかったような研修ができたりすればいいなと思っています。

さて、四條畷市では効率的な人材育成を図り市民サービスの向上と持続可能な組織の構築に向け今年度新たな人材育成基本方針を策定し、それに基づき来年度に研修計画を策定する予定です。新卒の職員だけでなく、民間企業経験者も増えてきていますので、現状を踏まえた計画を策定し、職員にとって気づきの場となるような研修を実施できるよう取り組んでいきたいと考えています。

末筆ではございますが、マッセOSAKAの皆様、各市町村研修担当者の皆様には、いつもお世話になりありがとうございます。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

次回は、合同で研修を実施させていただき等いつもお世話になっております、交野市人事課の林さんにバトンタッチさせて頂きます。林さん、どうぞよろしくお願ひいたします。

次回は、【交野市 林さん】にバトンタッチ！

## お知らせしマッセ

☆☆各種ご案内☆☆

### 令和5年度の研究会について

来年度は下欄の2つの研究会を実施する予定です。興味のある方、研究してみたい方は所属団体の職員研修担当課まで！  
(詳細は4月上旬に通知予定)

#### ○持続可能な行財政運営を考える研究会

～財政規律と健全性の確保に向けて～

指導助言者：

甲南大学マネジメント創造学部

マネジメント創造学科

准教授 金坂 成通 氏

本研究会では、行財政の構造的・中長期的な課題の分析を行い、歳入歳出の水準の在り方や財政目標を検討したうえで、歳出の徹底的な見直しや行財政の効率化、実現可能な歳入確保策等について他の自治体事例を踏まえて検討・具体化を進めていきます。

#### ○自治体と民間等のマッチングから施策実現までのプロセスについて考える研究会

指導助言者：

長崎県立大学経営学部経営学科

准教授 津久井 稲緒 氏

本研究会では、自治体と企業等の対話を通じたマッチングにより施策効果の拡大、新たな施策展開を図るソフト面の包括連携協定や協定を結ばない連携を基軸に、互いのディスカッションによる住民サービス向上を目的とする自治体と民間等のマッチングから施策実現までのプロセスを検討します。自治体、企業等それぞれが抱える課題を調査、成功事例の分析を行ったうえで、住民と企業等と自治体にとって三方よしの公民連携の事業実施までに必要な仕組みについて提言します。

### 令和5年度研修情報 見本市のお知らせ

特別研修の「研修情報見本市」は、タイムリーな研修企画や講師の発掘にぴったりの研修で、人事・研修ご担当者の方は必見です！  
(詳細は7月に通知予定)

- 開催日：令和5年8月29日(火)
- 概要：選りすぐりの研修専門事業者のトレンドや“推し”の研修企画のプレゼン、講師本人による模擬研修を受けることができます。

